

## メッセージアウトライン

### コリント人への手紙 第一12:21～27 「弱い者の重要性」

[21] 「そこで、目が手に向かって、『私はあなたを必要としない』と言うことはできないし、頭が足に向かって、『私はあなたを必要としない』と言うこともできません」  
コリント教会の一部の人々は、与えられた御霊の賜物を比べあって、卑屈になったり高慢になったりしていた。パウロはそのことに対して警告をする。目や頭はからだの中で比較的目立つ部分である。しかし、だからといって目が手に向かい、頭が足に向かい、君は必要ではないと言うことはできない。これは当然のことである。イエスの教え→ルカ22:25～27。

[22] 「それどころか、からだの中で比較的弱いと見られる器官が、かえってなくてはならないものなのです」

外からは見えない内臓器官である心臓、肝臓、腎臓、肺、胃腸などは普段あることさえ忘れていたが、実は非常に重要なものであり、これらの臓器がなくなれば人間は生きてはいけぬ。パウロは各人の賜物をからだの器官にたとえているが、目に見える派手な異言などの賜物を誇っていたコリント人たちはまだまだ成熟していないクリスチャンであったことがわかる。

[23-24] 「また、私たちは、からだの中で比較的尊くないとみなす器官を、ことさらに尊びます。こうして、私たちの見ばえのしない器官は、ことさらに良いかっこうになりますが、かっこうの良い器官にはその必要がありません。しかし神は、劣ったところをことさらに尊んで、からだをこのように調和させてくださったのです」

弱い内臓は強い骨をもってこれを囲み、厚く柔らかい肉のクッションで包まれ、丈夫な筋肉と皮で覆われている。これは弱い部分に対する神の配慮であろう。顔などのかっこうのよい器官にはその必要がない。神はかっこうのよい器官とそうでない器官とを、このようにすばらしい配慮をもって調和させてくださっている。必要でない器官など一つもない。そしてこれはキリストのからだである教会のことを言っているのである。

[25] 「それは、からだの中に分裂がなく、各部分が互いにいたわり合うためです」

からだの各部分は分裂して争うためではなく、互いに調和をもっていたわり合うためである。キリストのからだである教会もこのようであればならない。

[26-27] 「もし一つの部分が苦しめば、すべての部分がともに苦しみ、もし一つの部分が尊ばれば、すべての部分がともに喜ぶのです。あなたがたはキリストのからだであって、ひとりひとり各器官なのです」

ペテロが捕らえられた時、他のクリスチャンたちは彼の救出のために祈った。→使徒12章 パウロが伝道旅行で窮乏していた時、教会の兄弟姉妹は彼の欠乏を補うために援助した。→ピリピ4:14～18 彼がローマの獄中にいた時、わざわざ捜し出して励ましてくれた。→Ⅱテモテ1:16～17 このように苦しむ者、悩む者、痛みを覚える人々を他の兄弟姉妹がその重荷を担い、助け、強め、励ます。喜ぶ者とともに喜び、悲しむ者とともに悲しむ。そのようにクリスチャン一人一人がキリストのからだの器官としての役割を果たすことが大切なのである。